

## ★トランプとアメリカ帝国主義＝鈴木 頌

以下は北海道 AALA 学習会でおこなった講演のレジメです。

### 帝国主義の変貌 1 ケネディー～ニクソン時代の帝国主義

私の世代では、「帝国主義」といえば、評論員論文「ケネディーとアメリカ帝国主義」と「ニクソンとアメリカ帝国主義」だった。そこでは「帝国主義」は、

1. 覇権主義（特に軍事的覇権）
2. 新植民地主義（民族主義の抑圧）
3. 資本主義体制の盟主としての秩序強制

のセットとして描かれていた。

### 帝国主義の変貌 2 レーニンの時代の帝国主義

私の世代では、「帝国主義論」といえばレーニンだった。100年前の帝国主義は

1. 多くの国が皇帝・王を擁する文字通りの帝国
  2. 銀行を頂点とする独占資本の寡占支配
  3. 世界を植民地として分割し非均衡貿易を強いる
- という特徴を持っていた。そして帝国間で覇権を覗っていた

アメリカは独立を勝ち取った「自由の国」であり、特殊な「帝国」だった。それは非帝國的な帝国主義という概念をもたらした。

### 帝国主義の変貌 3 唯一の超大国としてのアメリカ

ソ連・東欧諸国の崩壊により、アメリカが自動的に唯一の超大国となった。しかしアメリカ自身も深刻な弱点あり、完全な一極化ではなく1.5極化にとどまる（0.5としてEU、中国、ロシアなど）

しかしその後アメリカは次のような手段で覇権を強化した。

1. 金融工学開発と米ドルの基軸化
2. 新興国への新自由主義（為替・資本自由化）の押しつけ

### 3. 国連を軽視する単独行動主義

により唯一の覇権国＝「帝国主義国」への道を歩む

#### 帝国主義の変貌 4 「唯一の超大国」が覇権を求める

イラク侵攻時に世界で起きた抗議行動など、アメリカの覇者への道は決して平坦ではなかった。それが一気に全面的な覇者の地位に上り詰める。そのきっかけはリーマン・ショックであった。

アメリカは大規模な量的緩和を繰り返すことによって、世界に対する金融支配力を強化した。対応が遅れた EU は一気に弱体化し、新興国は深刻な債務危機に陥った。こうして次のような帝国主義の新段階が登場した。

1. ドルが唯一の決済通貨に。ドルによる世界支配
2. ドルを持つ1%の人が世界を支配する体制
3. 軍事力と金融力による世界支配

これに情報分野での高い競争力を加えることにより、アメリカの世界支配が完成した。一方で国内・国外に矛盾と不満・敵意が蓄積し、世界が急速に不安定化しつつある。

#### 帝国主義の変貌は何をもたらすか

これが「トランプとアメリカ帝国主義」という提示に対する私なりの回答になる。

「デマゴグ政治と軍産複合体の癒着」というのがトランプ政権の特徴であろうと考えている。

なぜそのような政権が登場したのか、その基礎となる社会的状況と歴史的段階を考えてみたい。

それは「アメリカ帝国主義の変貌」という性格を持っていると思う。

1. 人類史上最強・最悪の帝国主義の出現（倫理観の欠如）
2. 金融不安の増幅（常に金融恐慌の可能性が存在）
3. 憎悪の共振がもたらす戦争への不安

しかし国内外の抵抗を前に支配層の不安定性もまた増強する。国内的には例えばオバマ前政権である。オバマ評価にはいろいろ意見もあろうが、政権の姿勢次第で投資銀行への規制、銀行預金の国際規制、医療保険制度の前進など、政権次第では1%への有効な打撃を加えることもできることを示した。またかつてのイラク侵攻反対キャンペーンのように、多国間主義（国連中心主義）に基づいてアメリカを包囲していくならば、歴史を前向きに回転させていくことも可能だ。新興国の発展していくエネルギーはあらゆる困難を押し切って、人類の発展を保証していくものとなるだろう。

そのためにも多くの人々がアメリカ帝国主義に対する見方を一致させ、変革の展望を共有することが望まれる。